

エンジョイ！軟式野球フェスティバル 2026
北信越大会競技規則及び方法

1 大会特別競技規則

- (1) 本大会の試合は、原則として6回戦及び90分の試合制限時間（90分を過ぎたら新しいイニングには入らない）を採用して行う。
- (2) (1)を原則とするが、6回終了時又は90分を経過して同点の場合は、2回までを限度に、次の『タイブレーク方式（特別延長戦）』を行う。
『タイブレーク方式（特別延長戦）』
継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁の走者は順次前の打者とする。
すなわち、無死1・2塁の状態にして、投手の投球数制限を遵守の上、1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返すこととする。なお、通常の延長戦と同様、規則によって認められる団員の交代は許される。
- (3) (2)を適用しても決着がつかないときは、抽選によって勝敗を決定する。
- (4) 抽選方法は、全日本軟式野球連盟『学童野球に関する事項』による。
- (5) 得点差のコールドゲームは採用しない。
- (6) 投手は、変化球を投げることを禁止する。投げた場合はペナルティを課す。
- (7) 参加団員に対し、全員が各試合に出場できる機会を与えることが望ましい。
- (8) 抗議は、監督又は当事者が行わなければならない。
- (9) 本規則に定められていない事項が生じた場合は、審判員協議の上、大会審判長の権限により処理する。
- (10) 投手の投球数制限
 - ① 肩、肘の障害防止を考慮し、1人の投手が1日に投球できるのは70球（4年生は60球）以内とする。試合中に70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。※投球数は本部にて計測する。
 - ② その試合中の投球数が70球（4年生は60球）以内であれば、投手が一旦他のポジションに移動し、再度投手に戻ることはできる。
 - ③ ボークにもかかわらず投球したものは、投球数にカウントする。
 - ④ タイブレークになった場合も、①の規定投球数を超えてはならない。
 - ⑤ 走者に対しての牽制球、投球練習は投球数にカウントしない。
- (11) 指名打者の取扱いについて
全日本軟式野球連盟競技者必携 2026 に記載の指名打者ルールを使用することができる。ただし、二刀流選手を採用しない。
- (12) リエントリー制度について
本大会の主旨に鑑み、より多くの選手に出場機会を与えること、また、選手の熱中症や疲労による疾病予防を目的に以下のとおりエントリー制度を適用する。
 - ① 先発メンバー9名（指名打者制度を利用する場合10名）及び途中出場した選手を含み、1度に限り再出場可能とする。
 - ② 再出場の回数は1人に対し1度までとする。
 - ③ 再出場する場合は、打順は元の打順とする。守備の変更は可能だが、投手・捕手が再び投手か捕手に戻る場合、ブルペンで投球練習を行う等、障害予防に努めること。

2 危険防止のため次の用具を使用する。

- (1) 打者、次打者、走者及び走塁指導者は、SGマークの付いた両側にイヤーフラップのあるヘルメットを着用する。

- (2) 捕手が投球を受けるとき、捕手の防御用のヘルメット及びフェイスマスク（スロトガード付き）を着用しなければならない。また、プロテクター、レガース、ファウルカップを必ず着用すること。
- (3) 上記の各用具及びバットは、全日本軟式野球連盟公認（JSBB マーク入り）のものを使用すること。※木製バットは除く
- (4) 打者・捕手用のヘルメットは、SG マークの入ったものを使用すること。
- (5) 素振り用の鉄棒（鉄パイプを含む。）、バットリングの使用は禁止する。
- (6) 金属スパイクの使用は禁止する。

3 競技運営に関し、次のことを規定する。

- (1) 競技者の背番号は、算用数字で0番から99番までとし、代表団員（主将）は10番に統一する。なお、必ず団員章を着用（左袖以外）する。
- (2) 試合中のダッグアウト（ベンチ）の中に入れる人員は、参加申込書に記載された監督、チーム代表者、コーチ2名、スコアラー、熱中症対策スタッフ2名、団員25名の計32名とする。※スコアラーは団員以外とし、記録に関する以外の行為（シートノック等）は認めない。
- (3) 監督の背番号は30番に統一する。また、コーチとしてベンチ入りする場合、背番号は28番と29番とする。監督、コーチは指導者章を着用（左袖以外）すること。スコアラー、熱中症対策スタッフの服装は、私服（スポーツに相応しい服装）とし、IDカードを着用すること。
- (4) ベンチ内での電子機器類（携帯電話、パソコン等）及び携帯マイクの使用を禁止する。
- (5) ダッグアウトは、組合せ番号の若い方を1塁側とする。
- (6) 試合前のシートノックは5分間とする。ノッカーも必ずユニホームを着用すること。
※大会運営の都合により時間の短縮、シートノックなしで試合をすることもある。
- (7) 球場内でのフリーバッティングは認めない。
- (8) 試合中のベンチ前での投球練習は禁止するが、ブルペンでのキャッチボールは2組4名以内で認める。
- (9) 第1試合のチームは試合開始予定時刻30分前、第2試合以降は、前の試合3回終了時までには本部へメンバー表5部（必ずふりがなを付けること）を提出して登録メンバーの照会を受けること。なお、その際、監督が立ち会い、代表団員（主将）によって攻守の決定を行う。
- (10) 試合開始予定時刻前であっても前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。
- (11) 試合開始時刻になっても会場に来ていないチームは、原則として棄権とみなす。
- (12) 監督に限り、グラウンドに出て指示することができる。
- (13) 攻守交代は駆け足で行うこと。
- (14) ファウルボールの処理については1塁側に止まったものは1塁側チームが、3塁側に止まったものは3塁側のチームが拾う。捕手の後方に止まったものは、攻撃側のチームが拾う。なお、拾ったボールはボールボーイ（ガール）に渡す。
- (15) 雨天など悪天候等の場合の運営等について
 - ① 小雨等の場合、日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は試合を行うことがある。
 - ② 天候等により、1日目が中止の場合は、2日目に1日目の試合を行い、残りを抽選で決定する。両日とも試合ができなかった場合は、全試合を抽選で決定する。なお、抽選方法については、大会連絡事項に定める。
 - ③ その他、大会の運営・進行については大会本部の指示に従うこと。

④ 当日の試合実施の可否に係る問い合わせは、午前7時以降に次の電話で対応する。
(富山県スポーツ協会携帯：090-7080-9150)

- (16) チーム及び応援団は、全日本軟式野球連盟の競技者規程に触れることのないように注意すること。特に、投手が投球モーションに入ったら、応援を止めなければならない。また、好ましくない応援（鳴り物は禁止）や野次に対しては、審判員がそのチームに対して注意をする。

エンジョイ！軟式野球フェスティバル 2026 北信越大会 連絡事項

1 指導者会議について

- (1) この会議には、各チームの監督及び代表団員（主将）がユニホームを着用し、公認野球規則と競技者必携、筆記用具を持参して出席すること。
- (2) この会議に出席しないチームは、原則として大会を棄権したものとみなす。
- (3) この会議での説明及び決定事項は、チームと応援関係者に必ず周知徹底させること。
- (4) 会議の主な内容
 - ① 参加申込書の記載事項の確認 ※参加申込書提出後の団員の追加及び変更は、原則として認めない。
 - ② 監督及びチーム代表者の交代の確認
 - ③ 大会競技規則等の確認
 - ④ その他大会の運営に係る必要事項の説明と確認

2 開会式・閉会式について

- (1) 参加チームは、必ず開会式に参加すること。決勝に残ったチームは、必ず閉会式に参加すること。
- (2) 開会式及び閉会式における監督、チーム代表者、団員の服装は、競技時の服装とする。
- (3) 開会式・閉会式はチームごとに都道府県プラカード、単位団旗、団員の順に整列する。なお、プラカードは主催者が用意する。
- (4) 参加申込書に記載のある団員以外の団員（小学生団員でユニホームを着用したもの）の参加を認める。ただし、試合中ダッグアウト（ベンチ）入りは認めない。
- (5) 代表団員（主将）宣誓は、開催県代表チームの代表団員（主将）が行う。各チームの旗手は、代表団員（主将）宣誓の時、宣誓者を中心に半円形に集まり、宣誓時に旗を斜め前方に倒し、宣誓終了後元の位置に戻る。

3 抽選方法について

- (1) 審判員及び試合終了時に出場していた両チームのメンバーが、終了あいさつの状態に整列する。
- (2) 抽選用に○印、×印各9枚を記入したものを封筒に入れる。
- (3) 球審が18枚の封筒を持ち、先行チームから1枚ずつ交互に選ばせる。
- (4) 二人の審判員が両チーム監督立会いのもとに開封し、○印が多い方を抽選勝とする。

4 その他

大会の運営・進行については、大会本部の指示に従うこと。